MITSUKOSHI JAPAN SENSES

生誕90周年記念

山下清展

「長岡の花火」
紙絵／1950（昭和25）年

「自分の顔」（部分） 紙絵／1950（昭和25）年

2012 12月27日[木] → 2013 1月14日[月・祝]

日本橋三越本店 新館7階ギャラリー

入場料：一般・大学生800円／高校・中学生600円
[小学生以下無料・税込]

午前10時～午後6時30分【午後7時閉場】
※12月31日（月）は午後5時30分まで【午後6時閉場】、1月1日（火・祝）は店舗休業日、
最終日は午後5時まで【午後5時30分閉場】

主催：読売新聞社　協力：山下清作品管理事務局　企画協力：ステップ・イースト

©清芸社

その芸術は、自由なる魂の輝き。

MITSUKOSHI
日本橋本店

生誕90周年記念

山下清展

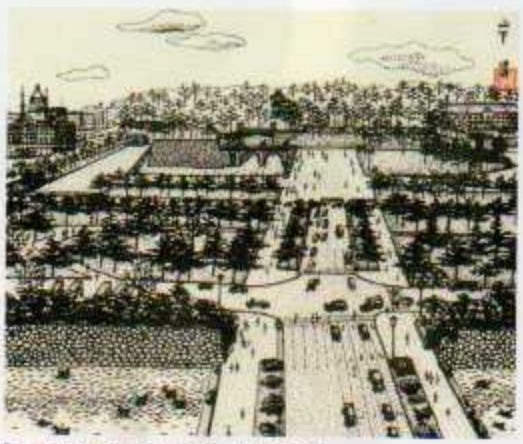
「桜島」貼絵／1954(昭和29)年

「富士山」
タイル画／制作年不詳

「ヨーロッパの壺」
壺／制作年不詳

放浪中に使用した
リュックサック

初公開 「ソニコンロケット」貼絵／1959(昭和34)年頃
増田屋コーポレーション所蔵



「皇居前広場(東京)」版画／制作年不詳

「ロンドンのタワーブリッジ」貼絵／1965(昭和40)年

特別出展 「菊」油彩／1949(昭和24)年～1956(昭和31)年頃
津具屋製菓所蔵 ©清荷社

2012年に生誕90周年を迎えた、放浪の天才画家・山下清。長い年月を経てもなお、清の作品が多くの人々に愛されているのは、観る者の心を捉えて離さない、素朴で懐かしい日本の原風景がそこにあるからではないでしょうか。1922(大正11)年この世に生を受けた清は、49歳で亡くなるまで、激動の昭和という時代とともに歩んできました。その波乱に満ちた人生は、映画やテレビドラマにもなり、画家としての領域を超え、美術ファンのみならず幅広い層から支持されています。近年では、画家としての再評価が高まっているだけでなく、清独自の文体で書かれた文章にも注目が集まっており、山下清の人気は、ますます高まっています。

本展では、「日本のゴッホ」「放浪の天才画家」と称される山下清の生誕90周年を記念し、山下清の生涯を代表的な貼絵を中心にご紹介いたします。貼絵による完成を夢見て挑んだ最後の大作「東海道五十三次」の公開や一般初公開の貴重な貼絵作品を含め、鉛筆画、油彩、水彩画など約150点を一堂に展覧いたします。山下清の生涯を、遺族の証言に基づく"真の姿"としてご紹介いたします。

会場構成　第1章:少年期の山下清そして放浪　第2章:芸術家としての挑戦　第3章:初のヨーロッパへの旅と邂逅・東海道五十三次

山下 浩氏(山下清作品管理事務局代表、山下清の甥)ギャラリートーク

12月29日(土) 午後1時～・午後3時～ [会場内] ※ギャラリートークご参加には会場内へのご入場が必要となります。

1922(大正11)年　3月10日、東京市浅草区田中町に生まれる。
1925(大正14)年　重い消化不良にかかり高熱にうなされる日々が続き、軽い言語障害となる。
1934(昭和9)年　千葉県の知的障害施設「八幡学園」に入園。学園での「千切り絵」が清の画才を発揮させ、彼独自の技法による貼絵となる。
1940(昭和15)年　11月18日に突然、学園から姿を消し放浪の旅に出た。幾つかの職業を転々としながら千葉県内、そして日本各地へと放浪の旅を続けた。時折、母の家や学園に戻り、園長に描き付いた旅先での風景を貼絵にした。
1953(昭和28)年　アメリカの雑誌「ライフ」が清の作品を見て驚嘆、放浪中の清を捜し始める。
1954(昭和29)年　1月10日、函児島で発見される。弟・辰造が迎えに行き、清の放浪生活は終わった。
1957(昭和32)年　母、弟・辰造と世田谷に住み始める。
1961(昭和36)年　ヨーロッパ他9カ国を訪問。
1964(昭和39)年　東海道五十三次」の創作を始める。
1971(昭和46)年　7月10日の夜、突然の鼻出血で倒れる。7月12日朝永眠。最後の言葉は「今年の花火見物はどこに行こうかな」だった。享年49歳。

※都合により、イベントの内容が変更となる場合がございます。予めご了承ください。

お問合せ先:日本橋三越本店 TEL.03-3241-3311(大代表)